

小城市立小城中学校

令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析と今後の取り組みについて

令和4年10月

中学3年生を対象に4月19日に実施された全国学力・学習状況調査(生活習慣に関する意識調査・国語・数学・理科)について、本校の結果の分析と今後の取り組みをお知らせします。

意識調査については、全国・県と比較して数値がとくに高かった点、低かった点についてグラフ化し、結果の分析と今後の取り組みについて示しています。

国語、数学、理科については、学習指導要領の内容「知識・技能」「思考・判断・表現」別に分析と改善に向けた取り組みをまとめています。

【小城中学校の国語、数学、理科調査の正答率について】

国 語：正答率は国・県の平均と比較してやや下回っています

数 学：正答率は国・県の平均と比較してやや下回っています

理 科：正答率は国・県の平均と比較してほぼ同じです

【生徒用個票(結果)について】

9月に生徒に配付しています。この分析結果と照らし合わせて再度ご確認ください。

なお、答案の採点は国で行っているため、答案用紙の返却はありません。

【今回の調査を受けて】

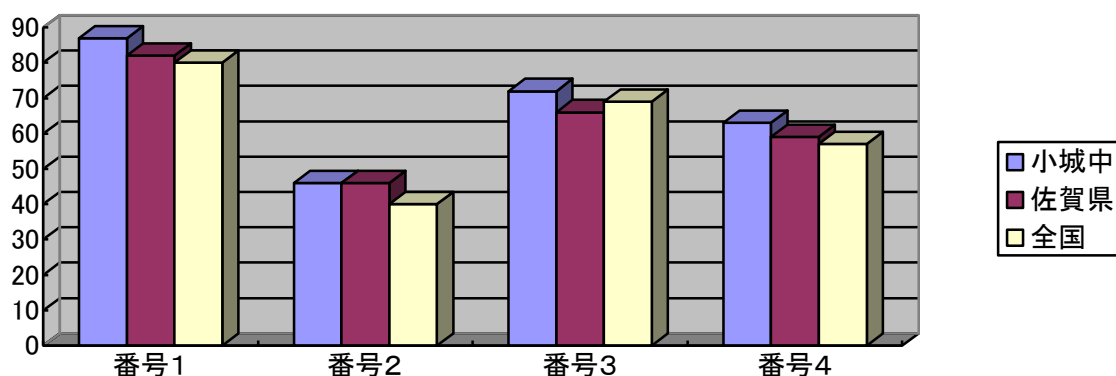
今回の調査を受けて、全職員で結果の分析と今後の具体的な取り組みについて協議しました。全教科の職員で多面的に分析することにより、教科を横断した具体的な取組につなげるためです。今後の授業において、強みとなっている部分をさらに発展させていくとともに、弱みとなっている部分に対する効果的な取り組みを全教科で実践していきます。

調査結果から、本校は「家庭学習時間の短さ」「平日のゲームやスマートフォンを扱う時間の長さ」等が課題として現れています。学校でも、将来に向けた学習の必要性やゲームやスマホ依存の危険性を伝えていきますが、学校と家庭(保護者)が両輪となって、これらの課題に向き合っていくことが必要と考えます。保護者の皆様におかれても、子どもたちの健やかな心身の成長のため、本校の取組に御理解、御協力いただきますようお願い申し上げます。

小城中学校 生活習慣に関する「意識調査」

県・全国と比べて小城中の数値が高かった項目

番号	調 査 の 項 目
1	毎日、同じくらいの時間に就寝している
2	住んでいる地域の行事に参加している
3	スマートフォンやパソコンの使い方について、家の人と守っている
4	学習にパソコンやタブレットを使用することは役に立っていると思う

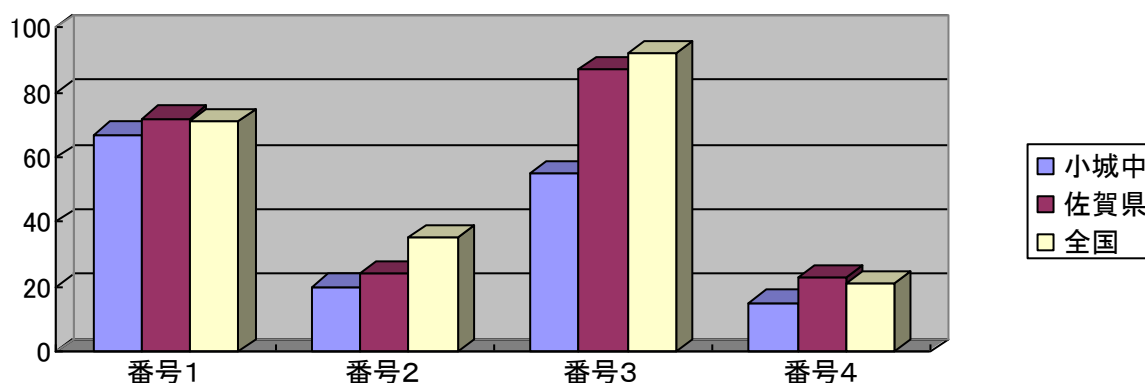


分析と取り組み

- ①【分析】就寝時間や起床時間については、8割以上の生徒がリズムを崩さないようにしている。
地域行事に参加する生徒の割合が高いとは言えないが、全国値より高い傾向にある。
【取組】健康の維持や増進の面からも、生活リズムを整える必要があることを保健だよりや教師の話等により啓発していく。家庭の協力も欠かせない内容である。
- ②【分析】ICT機器を取り扱う上でのルールはある程度定着している状況であり、学習に活用することの意味が高いととらえている生徒の割合が高い。
【取組】生徒のICT使用の有用感を受け止め、授業での効果的な活用について年間指導計画に位置付けて実践していく。

県、全国と比べて小城中の数値が低かった項目

番号	調 査 の 項 目
1	平日、スマートフォンやゲームをする時間が「2時間未満」である
2	平日の学習時間が「2時間以上」（塾や習い事を含む）である
3	学校の授業中に調べ学習に ICT 機器を利用している回数が「月1回以上」ある
4	地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらい、一緒に活動している



分析と取り組み

①【分析】1日に2時間以上、スマートフォンやゲーム機器に触れている割合が全国や県と比べて高い傾向にある。

【取組】毎月1日のノーゲーム・ノーテレビデーの実践の働きかけ、小城市の小中学生共通の取組である「夜10時～朝6時はスマホ不使用」を家庭とともに呼びかけていく。

②【分析】授業中は努力している傾向にあるものの、家庭学習時間が他と比べて数値が低い。家庭での学習時間の確保ができておらず、課題未提出の生徒が見られる。

【取組】自主学習の取り組み方指導の工夫。時間の使い方指導（タイムマネジメント）の工夫。面談や学校だよりを通して、家庭との連携強化を図る。

③【分析】授業中に電子黒板を使った場面は多いものの、生徒が個々に使用できるタブレットの活用頻度が低めとなっている。

【取組】授業にタブレットを活用した調べ学習を計画的に取り入れ、生徒が自己のペースで活動できるよう配慮していく。使用自体を目的とせず、使用によりどんな効果が得られるかを協議し、実践していく。

令和4年度全国学力・学習状況調査《 国語 》

今回の調査で明らかになった全体の傾向

- 「書くこと」及び「情報の扱い方に関する事項」の出題において、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことに課題。
- 「話すこと・書くこと」の出題において、具体的な助言があればスピーチの表現を工夫することはできているが、話し方の工夫について自分で考えることに課題が見られる。

観 点	分析結果・本校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	○「情報の使い方」についての事項は県平均を超えている。また、漢字の正答率は「喜ぶ」は高く、「除く」が低い。 ○心情を表す言葉の意味の理解はできている →「途方にくれた」 ○知識・技能は身に付けつつあるが、活用するところまでに至っていない。	○毎週の漢字練習・漢字テストの継続・充実を図る（語い力を増加）。 ○長文に触れる機会をさらに増やしていく。 ○学んだ語いを活用できるよう、短文作りの時間を継続的に設け、活用力の向上を図る。
思考・判断・表現	○記述式問題の無回答率が高くなっている。問題に向き合うスキルの向上が必要。 ○スピーチ内容を問う問題の正答率は全国より高い。表現を工夫して解答したものと推測できる。	○記述に抵抗を感じる生徒を減らすため、基礎的な問題の復習に取り組む。授業で、自分の考えをまとめ、記述する機会を増やす。 ○段階を踏みながら、条件にしたがって書く活動を積み重ねていく。

◆令和4年度全国学力・学習状況調査《 数学 》

今回の調査で明らかになった全体の傾向

- 「データの活用」の領域において、多数回の試行によって得られる確率の意味の理解には改善の傾向が見られる。一方で、初出題の「箱ひげ図」からデータの分布の特徴を読み取ることに課題が見られる。
- 「関数」の領域において、日常的な事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに引き続き課題が見られる。

観点	分析結果・本校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	○文字式の計算、方程式の解法、図形の求積などの短答式の問題は、正答率が県平均を上回るなど、習得できている生徒が多い。 ○図形の性質は、筋道を立てて証明することを苦手としており、三角形の合同条件についての正答率が低い。	○授業中の小テストやワークを利用した家庭学習の指導による結果と推測される。 ○図形の証明の授業において、前学年の学習を想起させながら、証明の進め方、思考の流れをおさえ学習を進めさせる。また、友だちと考えを交流させる学習方法を仕組み定着を図る。
思考・判断・表現	○データの傾向を読み取り、数学的な表現を用いて説明することが難しい。 ○長い文章問題では、出てくる情報の把握が不十分であり、問いの意図をつかむことへの難しさを感じている。	○資料を活用する学習（既習内容）を復習する場面を仕組む。 ○基礎的な知識を高めた上で長文問題に取り組む。

◆令和4年度全国学力・学習状況調査《 理科 》

今回の調査で明らかになった全体の傾向

○探究の過程における検討や改善を問う設問について、他者の考えの妥当性を検討したり、実験の計画が適切か検討して改善したりすることに課題が見られた（力のはたらき、天気の変化等）。

○過去に課題が見られた実験の計画における条件の制御については、改善の状況が見られる。

観点	分析結果・本校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	○学校で行われる実験や観察の基本的な内容についての定着は全国や県に対して良い結果が出ているといえる。 ○正答率も県平均や全国平均とほぼ同程度であったが、地学分野では知識の活用が不十分であることが明らかになった。	○基本的な知識を用いて考察する時間を取ることで知識の活用を促すようにさせる。 ○子ども達同士の説明活動など、学びあう活動を通して、活用力を高めていきたい。
思考・判断・表現	○知識・技能は県平均や全国平均とほぼ同程度だが、思考・判断・表現は全国よりやや低くなっている。文章で説明する力や考察する力が不十分である。 ○「選択式」「短答式」の問題については、無回答率は低く、正答率も県や全国平均とほぼ同程度である。	○文章で書く、説明するなどの表現する活動を設定していく。言葉での表現が難しい生徒についても、話し合い活動を通して表現の仕方を習得させていく。